

歯科研究会

# 医療安全対策等学習会

～ 院内感染対策も含めて～



中村 智彰 先生



西村 賢二 先生



10月5日木曜に医療安全対策等学習会がありました。今回は「偶発症に対する緊急時の対応」「高齢者の心身の特性」「口腔機能の管理」「医療事故」の5つのテーマでした。また「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」「歯科外来診療環境体制加

算」「在宅療養支援歯科診療所」の施設基準に対応してあります。講師は、佐賀県健康福祉部健康増進課副課長の西村賢二先生と、中村歯科医院の中村智彰先生です。平成23年度の学習会を受講してあります。しかし内容に新しい概念が多く盛り込まれ大きく

時代が変化しているのを感じます。たとえばオーラルフレイル(残存歯の減少、多発性カリエス、歯周病、唾液量の減少、口腔粘膜疾患)、ミールラウンド(食事の観察、嚥下は超高齢化する日本ではこれから歯科医師が重要な役割を担っているのは明らかです。また時代によって血圧の基準は変わります。緊急蘇生のABCは、今では順番が変わりCABになっていることは周知のことだと思えます。タービンの使い回しが問題となりながら、かたやスタンダードプリコーションという感染・非感染を区別しない院内感染予防対策が当然となっています。

医療機関では偶発症に対するスキル(BLS(一次救命処置)とAED)を身に付けておく必要があります。医療が進化している以上は医療従事者は常にアンテナを立てておき、時代に追従するべく学び、実行せねばなりません。一度受講しただけで知識や技術は身に付くものではありません。機会があれば何度も受講し身に付けて、いざというときに役立てることができるようになることが大切です。

(唐津市 獅子丸)

# 佐賀県保険医新聞

発行所

佐賀県保険医協会

佐賀市駅前中央1-9-45

(三井生命ビル4F)

電話 0952(29)1933

FAX 0952(23)5218

HP <http://saga-doc.jp>

✉ [hoken-i@star.saganet.ne.jp](mailto:hoken-i@star.saganet.ne.jp)

購読料 1部 200円

送料込 年間2,400円

(会員の購読料は会費に含まれています)

## 協会会員数

内科 660人

歯科 329人

合計 989人

(9月30日現在)

## 主な記事

- ・ 歯科研究会 病気を持った患者の歯科治療シリーズ(第1回・2回) …… 2面
- ・ 第35回保団連病院・有床診療所セミナーin大阪 …… 3面
- ・ 第32回保団連医療研究フォーラムin愛知 …… 4面
- ・ 保団連2017年度全国会長・理事長会議 …… 5面
- ・ 経営税務「今年の年末調整の注意点は？」 …… 8面

## 第4回 歯の供養祭

10月7日(土)、佐賀市潮音寺にて第4回「歯の供養祭」を開催いたしました。以下、参加者からの報告です。



全国保険医団体連合会が、平成4年に「イレバ」の語呂に合わせて命名した「入れ歯の日・イレバデー」の前日に「入れ歯になる前に」との願いを込めて、10月7日(土)第4回「歯の供養祭」を開催しました。

永年にわたって、患者さんの身体の一部として働き続け、そして役割を終えられた入れ歯や差し歯、抜去歯牙に感謝の意を込めて供養する行事です。新井副会長が「歯は健康そのものに影響し、発音や顔の表情づくり、認知症予防にも重要な役割を果たしている」とあいさつされました。約50人分の入れ歯などを供え、潮音寺ご住職による読経、参列者の焼香が行われました。

歯科医療関係者ら約10人が参列し、感謝の気持ちを込めて手を合わせました。ご住職は法話で自身も入れ歯を使っていることを紹介し、「私たちは先祖や周りの人々、物のおかげで生かされている」と話されました。

歯の供養祭によって、歯の健康や噛んで食べられることの喜びを確認し、現在使っているご自分の歯や入れ歯を一生大切にしていただきたいと思っております。

入れ歯や差し歯に付いている金属部分は、精錬・リサイクル後に換金し、果難病相談・支援センター、ユニセフ、国境なき医師団の3団体に全額寄付いたします。

(常任理事 千葉 研介)

## クイズで考える医療

### 待合室に置いてください

クイズハガキを無料で配布中です。切手不要の「受取人払い」としましたので、院内の待合室に置いていただくなど、ぜひご利用ください。

※お申し込みは、同封の申し込み用紙をご覧ください。

### 【応募者の声】

- ・ 高齢になったら病院通いが多くなり経済的にも苦しい。窓口負担を上げないでほしい。(75歳・自営業)
- ・ 年金は減額する一方で、負担増計画は理解できない。もつての外だ。(80歳・農業)
- ・ 私も費用がかかるからと受診をやめていることが多い。(20歳・会社員)
- ・ 子どもが小さい頃は何回も病院に通いました。少しでも助成があると助かります。(44歳・会社員)
- ・ 若い世代の窓口負担額も少しは減らしてほしいです。(32歳・会社員)

## 曙

果汁100%ジュースにリスク、米小児科学会(AAP)が警告。ジュースは子供たちにとって定番の飲み物だったが、ここ数年は新たに「不健康な食品・飲料の一つにも挙げられるようになり、肥満、虫歯などの一因と指摘されている▼AAPは、フルーツジュース(果汁100%飲料)に関する提言を発表。乳幼児から10代の子供たちを対象とした年齢別の適切な摂取量についての見解を明らかにした。AAPに所属する医師の中には、子供にはフルーツジュースを与えるべきでないと考える人々もいる。生後1年までは、果汁から得られる栄養学的な利点はないとのことである▼「フルーツジュース」に該当するのは濃縮還元を含む果汁100%の飲料で、AAPは「1歳以上の子供には、健康的でバランスの取れた食生活のために、濃縮還元を含めた果汁100%のジュースを勧めることができると述べる一方で、その他の「果汁入り飲料」は、栄養的にフルーツジュースと同等でないことに注意が必要だと指摘している▼提言では明確な量を規定していないが、過度の摂取は下痢や腸内にガスがたまること、腹部膨満と関連しているそうだ。殺菌されていないジュースには、深刻な症状を引き起こす大腸菌、サルモネラ種などの細菌が含まれている可能性があるが、低温殺菌された推奨量の100%ジュースだけを飲むように注意すれば、生後半年以降の年齢の子供たちも、ほぼ問題は起きないとされている。

(T.S)